

(報告) 本学における教員免許更新講座実施に関して

A Report of Teachers' License Renewal Course in Aichi Syukutoku University

教職・司書・学芸員教育センター

小栗 正彦

This paper serves to record governmentally mandated organizational changes in the operations of institutes responsible for the training and licensing of teachers.

On 11 July 2006, the Central Educational Council made an official announcement regarding "the ideal method" for the future system of training and licensing teachers and advanced innovation in the system of license renewal. Consequently, the new renewal system for teachers' licenses was set to be implemented from the 2009 school year. Aichi Syukutoku University conducted an in-service seminar for Teachers' License Renewal Course August 2009.

2006年7月11日、中央教育審議会は「今後の教員養成・免許制度の在り方について」答申を公表し教員免許更新制の導入についての提言を行った。これを受けて教育職員免許法が改正され、2008年度にはその「試行」が、つづいて2009年度から各大学・大学共同利用機関、都道府県・政令指定都市・中核市教育委員会及び指定教員養成機関（専修学校などのうち文部科学大臣の指定を受けているものこと）などで本格実施された。

本学も2009年8月24日（月）～8月28日（金）までの5日間、この教員免許更新講座を実施した。以下に記すのは、本学における教員免許更新講座に関するまとめである。

1. 教員免許更新講座を実施するにあたって

2008年後期の授業が開始される直前の9月30日、愛知教育大学で愛知県教員養成コンソーシアムが開かれた。その席上には愛知県下の各大学及び愛知県並びに名古屋市教育委員会の方々も同席しておられた（愛知教育大学が座長）。そこで初めて愛知県及び名古屋市の受講者数の概数が示され（私学関係の受講該当者数については触れられなかった）、更新講座に参加する大学が非常に少なく、このままでは受講者の大半が受講できなくなるのではないかと、などの懸念が学校現場の教員代表から出された。この会議は参加大学に強制力を持つ決定権はないが、再度代表が集まって相談をしようということになった（最終的にはこの会からは何の提案も出されなかった）。

本学も遅ればせながら教職課程委員会でこの講座を立ちあげようということになり、6月にはそのためのWG（6人）が決まり、そのメンバーによって以下の大枠が決まった。

・日程…夏休み以外に適当な日程はない。

・受講受入れ人数…

①小学校教諭・特別支援学校教諭…50名

②中学・高等学校教諭（国語科）…30名

③ 〃 （英語科）…30名

④ 〃 （社会科・地歴科・公民科）…30名

※小学校教諭・特別支援学校教諭の50名は必修、選択領域を含む。

中学・高等学校教諭の必修領域は同時に行うので、最大90名となる。

・キャンパス…受講者側からみた場合に交通の便がいい星が丘キャンパスが妥当。ただし講座内容によっては一部長久手キャンパスもあり得る（その場合にはスクールバスの利用を依頼する必要があるだろう）。

・昼食…学食を開いてもらうことはできないか。

・学校現場の先生が日頃から取り組んでおられる授業に少しでも役に立つことのできる内容を「選択講座」領域にラインナップしよう。それでいてその分野における最新の研究成果を伝えられるような講座を準備しよう。

・特に英語の選択領域の講座にネイティブスピーカーを起用したい（ただしこの時期、本国に帰っている心配もあるが）。

・必修領域、選択領域ともに1講座3時間を割り当てる（試験の時間も含む）。

・講座をスムーズに運営していくために、学生のアルバイトを雇う。

・受付、その他受講者からの対応に対して、事務方にも専属のアルバイトを短期間必要とするのではないか。

・申込み受けは郵送とする（本学HPのPDFを利用していただく）。

パソコンでの受けは新たなソフトを作らざるを得ず、それには相当な費用がかかること。これは民間の会社に依頼した場合も同様であることを考慮した。

こうして具体的な講座内容が大学協議会に提案されると並行して資料に示したような形でできあがった。そしていよいよ文部科学省への申請書類を提出したのが2009年3月16日。これは愛知県の各大学に比べて遅く、申請許可の内定が下りたのが4月20日で、これは第4回目の認定大学であった。

かくして、やっと大学HPでの受け案内を行うことになったのが4月27日であった（この遅れについては受講者の方からも指摘があり、非常に面白い興味のある講座だったのに受講者が少なかったのは本 当にもったいなかったという感想をいただいた）。

この間、各大学への受講者の動向がわかり、名古屋市受講者はすべて市教育委員会の講座に参加することが決まり、試行の時のように応募開始と同時にすぐ定員をオーバーするといったことは全くないか、逆にどの大学でも受講者の集まりは少ない、などということが聞こえてきた（結果としてはどの大学とも試行段階とは違い、大きく受講者の数が減少した）。

2. 本学における教員免許更新講座の内容

詳細は資料を参照のこと。

3. 開講までの流れ

とりあえず申込み期間を5月18日(月)～5月22日(金)までとした。受講者が多数出た時は教職課程委員会WGのメンバー立ち会いの下で抽選を行うことにしていたが、そんな心配は全くなく、申込み受付は事情さえわかれば講座開始の1週間前まで受付けた。

申込受付が完了した段階から随時受講者に対して講座に対する事前アンケート、講座担当者にはテキストの執筆をお願いしたり、講座を実施するに当たっての要望(教室、授業にあたっての必要な機器など)をお聞きするやりとり、また講座が実施される全期間にそれをサポートする学生の募集などがなされた。

申込受付が完了した段階で受講料3万円の振込も行われた。

さらに講座担当者によって書き上げられたテキストの印刷と、受講者への郵送が事務方によって講座開始の10日前までに間に合うように行われた。このテキストの作成については講座担当者によるこだわりが感じられ、締め切り日最後まで熱心な書き込みがなされるなど、WGにとっては頭の下がる思いであった。

4. 受講者数(全29名)

小学校教諭・特別支援学校教諭(必修・選択領域)…15名

中学・高等学校教諭(必修領域)…14名

 選択領域…国語科…7名

 " 英語科…5名

 " 社会科・地歴科・公民科…2名

5. 受講者の事前アンケートから

このアンケートは、受講される先生方がどのような課題・問題意識をもってこの講座に申込みをされたのかを調査し、回答結果を講座内容に反映させていくために実施されたものであった。アンケート事項は文部科学省の様式にしたがって提出していただいたものである。多くチェックがつけられた項目をあげておく。

必修講座…子どもの変化と発達課題/脳科学・心理学等の最新知見にも基づく観点

 特別支援教育に関する新たな環境(LD・ADHD等)

 生活習慣の変化を踏まえた生活指導

 いじめ・不登校・問題行動等の対応と指導のあり方

 意欲を喚起する学習指導

 保護者・地域社会との連携協力のあり方

教科指導…教科教育の充実と指導技術の習得

確かな学力＝習得・活用・探求のバランスのとれた学力＝の育成をめざす学
習指導

いずれも実践・事例をもとにしたものという、学校現場で日々活躍されている先生方の、大学に求めている最新の知見・研究成果を期待しているとみることができる。その意味からいえば、WGが最初に意図した本学講座の方向と同じベクトルであったことはよかったと思う。

6. 受講者の本学講座に対する評価

詳細は資料を参照のこと。なお受講者のすべての先生が1時間の欠席・遅刻もなく、優秀な成績をもって 修了されたことを付記しておく。

7. まとめ

一番大きな問題点は講座受講者の数であった。この原因の一つに本学の講座更新制度への取り組みの遅さがあったのは否めない。さらに名古屋市教育委員会が主催する更新講座が多くを受講者を引き受けることになったために、希望受講者数を読み間違った点にある。このために、本学では講座担当者の方が受講希望者の数より多くなってしまい、大学側にかなりの経済的な負担をかけてしまった（資料参照）。

もう一つの問題はこの制度そのものについてのことである。まずこの制度のプラス面についてであるが、大学で行われている研究内容が外部の人々によって検証されたことであった。それはとりもなおさず、我々大学の側にいる教員が、日頃から実践している教育の在り方を問われることでもあった。この緊張感は現在本学で行われている「授業アンケート」とは別のものであったように思う。とくに教職課程を担当している教員にとっては非常に大きな成果をもたらしてくれたように思う（この結果の是非については資料の受講者によって提出されたアンケート結果が全てを物語っている）。

最後に残念に思う事を記しておく。すでにマスコミなどで報道されているように、この更新講座が実施されて1年も経たないうちに「廃止」されるということである。一国の教育政策という非常に大切な分野に、かくも拙速な制度改革ははたしていかなものか。ひと夏をこの講座に集中していただいた本学の講座担当者の先生方や、新学期を前に校務において本学の更新講座を受講された諸先生に対して心からお礼を申し上げて、取り急ぎ「報告」をする次第である。

資料1-1

【受講定員】

- ① 小学校教諭・特別支援学校教諭 50名
- ② 中学・高等学校教諭(国語科) 30名
- ③ 中学・高等学校教諭(英語科) 30名
- ④ 中学・高等学校教諭(社会科・地理歴史・公民) 30名

【開講場所】

愛知淑徳大学 星が丘キャンパス(地下鉄東山線 星ヶ丘下車 徒歩5分)

ただし、①の講座の8月28日及び②～④の8月26日は長久手キャンパスで開催

※ 長久手キャンパスへは星が丘キャンパス正門前から無料バスを運行します。

【講習日程】

2009年8月24日(月)～8月28日(金) 全日9:00～16:40

	8/24(月)	8/25(火)	8/26(水)	8/27(木)	8/28(金)
9:00～10:00	A・C	B・D・E・F	A・C	B・D・E・F	B・D・E・F
10:10～11:10	A・C	B・D・E・F	A・C	B・D・E・F	B・D・E・F
11:20～12:20	A・C	B・D・E・F	A・C	B・D・E・F	B・D・E・F
昼 食					
13:20～14:20	B・D・E・F	A・C	B・D・E・F	A・C	B・D・E・F
14:30～15:30	B・D・E・F	A・C	B・D・E・F	A・C	B・D・E・F
15:40～16:40	B・D・E・F	A・C	B・D・E・F	A・C	B・D・E・F

A…小学校・特別支援学校の教員を対象にした「必修領域」講座

B…小学校・特別支援学校の教員を対象にした「選択領域」講座

C…中学・高校の教員を対象にした「必修領域」講座(教科共通)

D…中学・高校の国語科の教員を対象にした「選択領域」講座

E…中学・高校の英語科の教員を対象にした「選択領域」講座

F…中学の社会科及び高校の地理科、公民科の教員を対象にした「選択領域」講座

○「教育の最新事情」(必修領域)に関する講座内容(12時間…小・特任教員対象)

	講座名	講座内容	時間数	担当者
1	特別支援教育論	我が国の障害のある子どもに対する教育は、平成19年度に特殊教育から特別支援教育に転換し、特別支援学校や特別支援教室、通級指導教室のみならず、小・中学校等の通常の学級においても行われることになった。本講座では、特殊教育から特別支援教育への転換の経緯、特別支援教育の基本理念と制度的枠組みを解説するとともに、特別支援教育で新たな対象となったLD、ADHD、広汎性発達障害等の発達障害とされる子どもたちを中心に、障害の特性と理解の仕方について概観する。	3	小畑允護
2	発達障害児の指導	発達障害児の指導・教育における「発達」や「障害」の捉え方、発達障害児の実際の指導のあり方について検討する。とくにコミュニケーションという面から、動作法体験実習などを行いながら、「からだ」を通して「やりとり」を基にした指導のあり方をさぐっていく。	3	二宮 昭
3	小学校英語教育で指導力を伸ばす授業	(1) 国際共通語としての英語の役割や、国際理解教育としての言語教育の視点から小学校での外国語活動について理解を深める。 (2) 小学校英語教育における理論的な枠組みを構築し、児童の言語習得のメリットを活かし、さらにコミュニケーション能力の育成を目指す授業のあり方を実践の知見や実践について理解する。 (3) 教材研究や教材作成を通して、効果的な授業のあり方を理解する。 (4) マイクロティーチングを通して外国語活動の指導における実践力を高める。 (5) 外国語活動の年間カリキュラムや指導案作成ができるようにする。	3	高橋英由紀
4	環境教育	環境教育に関する国の考え方を紹介するとともに地球の温暖化、オゾン層の破壊、酷暑雨風の減少など、地球規模の環境問題、生活様式の変化に伴うゴミの増加、水質汚濁などの都市・生活環境問題、生物多様性をめぐる自然環境問題等について、最新の知見を加えながら正しく理解し、その大切さを簡単に身近にある題材を用いて児童に教える能力を養う。	3	坂部孝夫

○「教科に関する講座内容」(選択領域)に関する講座内容(18時間…小・特任教員対象)

	講座名	講座内容	時間数	担当者
1	小学校理科教育の指導法	新学習指導要領の趣旨に沿って、小学校における理科教育のあり方を多角的に考察し、理科教育の目標と授業のつくり方について、理解を深める。更に基礎的な実験技術・操作で科学の不思議を体験することに力を入れ、科学を楽しみ、科学を人に伝える喜びを体感できる「科楽」の構築を目指す。	3	佐藤成哉
2	小学校における古典指導	2011年度から、本格的に小学校国際科教育の中で古典の指導がなされる。そこで、本講座では以下の3観点から、これからの小学校古典指導のあり方を考究していくものである。 ①小学校古典指導の変遷(教科書教材の採録状況を中心に) ②新学習指導要領にみる小学校古典指導 ③古典に親しむ態度を育成する指導のあり方	3	中嶋真弓
3	小学校図画工作の指導法	新学習指導要領の趣旨に沿って、よさや美しさなどの価値を感じ取る、感性教育としての図画工作学習の意義について理解を深める。また実習によって身近な材料や自然物を使った「造形遊び」の教材づくりを体験し、児童の発達段階に即した、創造的で実践的な図画工作の指導方法を開発する。	3	大久保義男
4	子どもと読書	成長の過程で読書はどのような意味を持ち得るのか。また、読書力とはどのような力を指すのだろうか。絵本と児童文学の実例を交えながら「豊かな人間性」のために読書が果たすべき役割や可能性を考察し、小学校における読書指導の力量を高める。	3	酒井品代
5	小学校社会科におけるディベート指導法	各種ディベートの解説と実践を行い、受講者のディベートの技術の向上を図る。また、児童の批判的思考力とコミュニケーション能力を養うために、児童の発達段階に応じた論題の作成方法、ディベートの進め方の指導方法を身につける。	3	楠元町子
6	食育に関する問題	「食育基本法」により、教育関係者が積極的に子どもの食育を推進することが求められるようになった。日本ではまだ歴史の浅い分野であるが、実際にどのような問題があるのだろうか。食育の可能性について考える。	3	佐藤実芳

○「教育の最新事情」(必修領域)に関する講座内容(12時間…中・高校教員対象)

講座名	講座内容	時間数	担当者
1 特別支援教育論	我が国の障害のある子どもに対する教育は、平成19年度に特殊教育から特別支援教育に転換し、特別支援学校や特別支援教室、通級指導教室のみならず、小・中学校等の通常の学級においても行われることになった。本講座では、特殊教育から特別支援教育への転換の経緯、特別支援教育の基本理念と制度的枠組みを解説するとともに、特別支援教育で新たな対象となったLD、ADHD、広汎性発達障害等の発達障害と言われる子どもたちを中心に、障害の特性と理解の仕方について概観する。	3	小畑久護
2 カウンセリングの技法	カウンセリングの人間観や基本的態度を踏まえた上で、実習による体験等を通して共感的理解や傾聴の意味を考える。そして、生徒や保護者との心を開き合う人間関係のために、カウンセリングの技法をどう活かしていくかについて理解を深めていきたい。	3	冨安希子
3 発達段階を踏まえた、生徒理解を深める知識と手法を学ぶ	初めに行政上の発達障害と、医学的発達障害の位置づけの違いを学ぶ。その上にあたって、情緒的発達に関する以下のことを学ぶ。 (1) 教育基本法及び学校教育法に示されている「自主」「自律」「自立」の精神について (2) 臨床心理学的発達(情緒的発達段階)の理解(第一、二反抗期について及び社会における経済的自立と更年期) 以上のことを踏まえた上で、敬壇に立つ教師としてのあり方について語る。	3	古井 景
4 学術情報の探求	学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。	3	伊藤真理

○「教育の最新事情」(必修領域)に関する講座内容(12時間…中・高校教員対象)

講座名	講座内容	時間数	担当者
1 特別支援教育論	我が国の障害のある子どもに対する教育は、平成19年度に特殊教育から特別支援教育に転換し、特別支援学校や特別支援教室、通級指導教室のみならず、小・中学校等の通常の学級においても行われることになった。本講座では、特殊教育から特別支援教育への転換の経緯、特別支援教育の基本理念と制度的枠組みを解説するとともに、特別支援教育で新たな対象となったLD、ADHD、広汎性発達障害等の発達障害と言われる子どもたちを中心に、障害の特性と理解の仕方について概観する。	3	小畑久護
2 カウンセリングの技法	カウンセリングの人間観や基本的態度を踏まえた上で、実習による体験等を通して共感的理解や傾聴の意味を考える。そして、生徒や保護者との心を開き合う人間関係のために、カウンセリングの技法をどう活かしていくかについて理解を深めていきたい。	3	冨安希子
3 発達段階を踏まえた、生徒理解を深める知識と手法を学ぶ	初めに行政上の発達障害と、医学的発達障害の位置づけの違いを学ぶ。その上にあたって、情緒的発達に関する以下のことを学ぶ。 (1) 教育基本法及び学校教育法に示されている「自主」「自律」「自立」の精神について (2) 臨床心理学的発達(情緒的発達段階)の理解(第一、二反抗期について及び社会における経済的自立と更年期) 以上のことを踏まえた上で、敬壇に立つ教師としてのあり方について語る。	3	古井 景
4 学術情報の探求	学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。	3	伊藤真理

○教科に関する講座内容(選択領域)(18時間…中・高校国語科教員対象)

講座名	講座内容	時間数	担当者
1 古典文学の読解 一源氏物語の新たな読み方	源氏物語の中から三つの場面を取り上げ、それぞれをこれまで見逃されていた視点からあらためて読み直すことにより、物語の陰影、迫力、生動感を引き彫りにしてみたい。その過程を通して、作品本文の細部を疎かにしないという、古典読解の基本的姿勢の大切さを再認識する。「夕顔」「末摘花」「賀木」を予定。	3	久保研幸
2 漢文の魅力	「句法暗記」を中心とする漢文教育から「虚詞・構文・語順」重視の漢文教育への移行を提案したい。漢文法は、①語順が最も重要であり、②その語順を決定する原因の多くが虚詞である、という観点から授業を進める。その際、中高生にも理解しやすいよう、既習の英文法用語をもふんだんに利用するという試みも紹介する。このような発想から授業を進めれば、漢和辞典がなぜ必要か、再読文字とは何なのか等、中高生の持つ素朴な疑問にも容易に対処できるようになるであろうし、また簡単な漢作文ならば作成させることも可能になると考える。	3	寺尾 剛
3 近代文学―「小説を読む」の意味	森鴎外、夏目漱石、芥川龍之介らの作品から、重要だと思われる作品を2〜3冊取り上げ、そのテーマ・方法を検討することで、日本近代文学の特質について理解し、あわせて日本文学における「近代」とは何かを考える。また、「小説を読む」という行為の意味や人間にとって「物語」はなぜ必要なのかについても考察する。	3	小倉 芳
4 現代文学	国際教科書に収録された現代文学の作品読解を通して、現代の日本社会が抱える困難な問題を小説がどのように作品化・問題化しているのかについて追求する。また、教室の中で「小説を読む」とはどのような行為であるのか、その方法と可能性についても考えたい。	3	永井聖樹
5 日本語教育	日本語教育の分野で外国語として学習する年少者の日本語教育について、まず概観する。次に第2言語教育の日本語の捉え方を述べて、日本語教授の実態を理解する。そして日本語によるコミュニケーションの能力とその習得方法を教育現場にそって考えたい。	3	山内啓介
6 日本語表現	言語を用いて情報や意見を正確に分かりやすく伝える能力、すなわち「言語技術力」を育成する指導のありかたを考える。生徒によくある失敗などの実例を踏まえつつ、文章表現・口頭表現双方における技術指導、および評価の方法について具体的に考える。	3	外山敬子

○教科に関する講座内容(選択領域)(18時間…中・高校英語科教員対象)

講座名	講座内容	時間数	担当者
1 異質な言語としての英語	学校での英語教育では、音声、発音、価値のレベルで異質なものである英語を学ばせ、多様なものの見方や考え方を理解させることが大切だが、そうすることで、言語や文化に対する関心を高め、実践的英語コミュニケーション能力を育てる指導法を考えたい。	3	松本育也
2 Paragraph Writing	In this course participants will learn how to write good paragraphs in English by example and practice. The course will begin by explaining how a paragraph is used in English to organize ideas, followed by guided writing practice. Models will be used to show participants how to write a paragraph; how and when to start a new paragraph; and the importance of transition and flow in a series of paragraphs. Writing activities will include self-introductions, writing a story and giving an explanation.	3	CURRAN
3 Debate	This class is intended to introduce students to both the idea of debate and its pragmatic use in academic and everyday settings. The skills of debate and argument should help students learn to engage in critical thinking; including evaluating evidence, understanding reasoning and considering the values of possible outcomes. Debate skill is also important in everyday conversation. This class should help students understand how native speakers of English use debate and argument to build trust in friendships.	3	MOLDEN
4 心に火をつける: ロールモデルを見つけよう	多忙な日々の中、自分の心に火をつけたいと思った時、どうされますか。今回、グループワークでロールモデルを探してみませんか。着眼点やヒントを提供しますので、共に調査してみよう。調査結果を利用して、高い評価を得ている日本人での英語教育の実 践例を対象にケーススタディを行い、英語教育に対する理解を深めよう。受講者の方は、参加者知らせても良いGmail アドレスを取得して講座に参加して下さい。(http://www.google.co.jp/)	3	大野清幸
5 Cyber-English	Cyber-English is a class designed to show students various practical ways in which the internet can be used to provide opportunities for interactions in English. Students study chat, blogs, email/pem pals, and other forms of communications. Students will gain computer skills while also learning the rules of natural communication in English on the Internet: Internet slang and Internet etiquette will both be covered as well as the basics of Where to go and what to do to find communication opportunities online.	3	McGEE
6 英語発音ワークショップ	英語学習はさまざまな発音上の問題を抱えている。例えば、多くの日本語母語者は、[r]と[l]、see(see)とsheを正しく発音し分けるのが不得手である。また、[l]は上の歯で下唇を噛むとか、[r]舌を巻いて発音する)などは英語の発音指導としては不正確である。この講座では、英語の発音、リズム、イントネーションなどについて、演習形式で学ぶとともに、英語発音指導の方法について考察する。	3	中野 慶

○「教育の最新事情」(必修領域)に関する講座内容(12時間…中・高校教員対象)

講座名	講座内容	時間数	担当者
1 特別支援教育論	我が国の障害のある子どもに対する教育は、平成19年度に特殊教育から特別支援教育に転換し、特別支援学校や特別支援教室、通級指導教室のみならず、小・中学校等の通常の学級においても行われることになった。本講座では、特殊教育から特別支援教育への転換の経緯、特別支援教育の基本理念と制度的枠組みを解説するとともに、特別支援教育で新たな対象となったLD、ADHD、広汎性発達障害等の発達障害と目われる子どもたちを中心に、障害の特性と理解の仕方について概観する。	3	小坂允純
2 カウンセリングの技法	カウンセリングの人間観や基本的態度を踏まえた上で、実習による体験等を通して共感的理解や傾聴の意味を考える。そして、生徒や保護者との心を聞き合う人間関係のために、カウンセリングの技法をどう活かしていくかについて理解を深めていきたい。	3	富安玲子
3 発達段階を踏まえた、生徒理解を深める知識と手法を学ぶ	初めに行政上の発達障害と、医学的発達障害の位置づけの違いを学ぶ。その上にあたって、情緒的発達に関する以下のことを学ぶ。 (1)教育基本法及び学校教育法に示されている「自主」「自律」「自立」の精神について (2)臨床心理学的発達(情緒的発達段階)の理解(第一、二反抗期について及び社会における経済的自立と更年期) 以上のことを踏まえた上で、教壇に立つ教師としてのあり方について語る。	3	古井 貴
4 学術情報の探索	学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。	3	伊藤真理

○教科に関する講座内容(18時間…中学社会科・高校地歴科・公民科教員対象)

講座名	講座内容	時間数	担当者
1 国際金融論	グローバル化が進む昨今、国際間の経済取引はますます相互依存を深めている。こうした動きの中で世界の共通通貨が存在しない中、国際経済取引の決済にあたって異種通貨の交換が必要となり、その交換比率が変動すると個々の取引に影響を受けるのみならず、一国あるいは世界の経済活動全体にも影響が及ぶ。このような世界経済の結びつきを通貨・金融面から理解するための基礎知識の習得をねらいとする。	3	秦 忠夫
2 国際ビジネス・トレンド	国際化の進む日本経済の現状をアメリカ・ヨーロッパ・中国・東南アジア・北東アジアのいまを見すえ、新聞・雑誌その他の資料を駆使して読み解いていく。	3	真田幸光
3 日本近代史	日清・日露戦争が日本近代史にいかなる影響を落としているかを政治外交史からとらえ直す。と同時にその戦争が名古屋市内においてどのようなカゲを落としているかを見ていく。	3	西尾林太郎
4 東海地方の考古学	生徒たちは歴史を学ぶ際に「考古学」には非常に興味を示す。ここ東海地方を中心とする最新の考古学的知見に基づき、日頃の授業の中に生かすことができる成果を楽しく学ぶ。	3	赤羽一郎
5 知的所有権	情報社会における知的所有権の役割について、「著作権法」を中心に解説する。情報社会においてどのような問題が生じ、それがいかに解決されるか、情報の受信者のみならず発信者としていかなる点に留意しなければいけないか、ケータイ社会の中にあつて子どもたちをいかに指導すればいいのか、また、毎日の授業の資料作成にあつて教師が注意しなければならない点などについて学ぶ。	3	辻田芳幸
6 社会科教育法としてのディベート活用	授業の成果をより効果的なものにするための一方法である「ディベート」について、その方法論を基礎的な段階から学ぶ。生徒が参加しやすいロールプレイの方法を取り入れたり、パネルディベートの解説と受講者による実践を行う。	3	楠元町子

2009年度 免許状更新講習受講者評価書

開設者	愛知淑徳大学	受講日	8月 日 ()	講師名	
講座名		受講者の 職名		受講者の 担当教科等	

1. 学校現場が直面する諸状況や教員の課題意識を反映して行われていた。 1 2 3 4
2. 講習のねらいや到達目標が明確であり、講習内容はそれらに即したものであった。 1 2 3 4
3. 受講生の学習意欲がわくような工夫をしていた。 1 2 3 4
4. 適切な要約やポイントの指摘等がなされ、説明が分かりやすかった。 1 2 3 4
5. 配付資料等使用した教材は適切であった。 1 2 3 4
6. 開設者の運営(受講者数、会場、連絡、事前調査等)は適切であった。 1 2 3 4
7. 教育を巡る様々な状況、幅広い視野、全国的な動向等を修得することができた。 1 2 3 4
8. これまでに知らなかった理論、考え方等、指導法や技術等を学ぶことができ、今後の教職生活の中での活用や自らの研修での継続した学習が見込まれる。 1 2 3 4
9. 受講前よりも講習内容への興味が深まり、自分の苦手分野の克服の一助となった。 1 2 3 4
10. 教職生活を振り返るとともに、教職への意欲の再喚起、新たな気持ちでの取り組みへの契機となった。 1 2 3 4
11. 全体を通して、他の教員にも勧めたい講習であった。 1 2 3 4

※ 評価の基準は以下のとおりとする。

1: 全くそう思う 2: だいたいそう思う 3: あまりそう思わない 4: 全くそう思わない

※ 本評価は今後の免許状更新講習の改善と受講者への情報提供のために行われるものであり、修了固定に係る評価には一切影響を与えません。

表1. 評価1～4のチェック数
【小学校・特別支援学校対象 必修領域全4講座】

項目	評価			
	1	2	3	4
1. 学校現場が直面する諸状況や教員の課題意識を反映して行われていた。	47 (78.3%)	12 (20.0%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)
2. 講習のねらいや到達目標が明確であり、講習内容はそれらに即したものであった。	40 (68.7%)	19 (31.7%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)
3. 受講者の学習意欲がわくような工夫をしていた。	40 (68.7%)	18 (30.0%)	2 (3.3%)	0 (0.0%)
4. 適切な要約やポイントの指摘等がなされ、説明が分かりやすかった。	41 (68.9%)	18 (30.0%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)
5. 配布資料等使用した教材は適切であった。	38 (63.9%)	18 (30.7%)	6 (10.0%)	0 (0.0%)
6. 開設者の運営(受講者数、会場、連絡、事前調査等)は適切であった。	38 (63.9%)	22 (36.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
7. 教育を巡る様々な状況、幅広い視野、全国的な動向等を修得することができた。	37 (61.7%)	22 (36.7%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)
8. これまでに知らなかった理論、考え方や、指導法や技術等を学ぶことができ、今後の教職生活の中での活用や自らの研修での継続した学習が見込まれる。	40 (68.7%)	20 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
9. 受講前よりも講習内容への興味が深まり、自分の苦手分野の克服の一助となった。	37 (61.7%)	22 (36.7%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)
10. 教職生活を振り返るとともに、教職への意欲の再喚起、新たな気持ちでの取り組みへの契機となった。	38 (63.9%)	22 (36.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
11. 全体を通して、他の教員にも勧めたい講習であった。	41 (68.9%)	15 (25.0%)	4 (6.7%)	0 (0.0%)

評価1: 強く思う 2: だいたい思う
3: あまり思うわない 4: 全く思うわない

1項目における、チェック数の合計は80

表2. 評価1～4のチェック数
【中学校・高等学校対象 必修領域全4講座】

項目	評価			
	1	2	3	4
1. 学校現場が直面する諸状況や教員の課題意識を反映して行われていた。	33 (58.9%)	22 (39.3%)	1 (1.8%)	0 (0.0%)
2. 講習のねらいや到達目標が明確であり、講習内容はそれらに即したものであった。	37 (66.1%)	18 (32.1%)	1 (1.8%)	0 (0.0%)
3. 受講者の学習意欲がわくような工夫をしていた。	31 (55.4%)	25 (44.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
4. 適切な要約やポイントの指摘等がなされ、説明が分かりやすかった。	33 (58.9%)	23 (41.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
5. 配布資料等使用した教材は適切であった。	33 (58.9%)	23 (41.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
6. 開設者の運営(受講者数、会場、連絡、事前調査等)は適切であった。	31 (55.4%)	25 (44.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
7. 教育を巡る様々な状況、幅広い視野、全国的な動向等を修得することができた。	27 (48.2%)	28 (49.4%)	3 (5.4%)	0 (0.0%)
8. これまでに知らなかった理論、考え方や、指導法や技術等を学ぶことができ、今後の教職生活の中での活用や自らの研修での継続した学習が見込まれる。	39 (68.8%)	17 (30.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
9. 受講前よりも講習内容への興味が深まり、自分の苦手分野の克服の一助となった。	43 (76.8%)	13 (23.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
10. 教職生活を振り返るとともに、教職への意欲の再喚起、新たな気持ちでの取り組みへの契機となった。	37 (66.1%)	19 (32.1%)	1 (1.8%)	0 (0.0%)
11. 全体を通して、他の教員にも勧めたい講習であった。	28 (50.0%)	27 (48.2%)	1 (1.8%)	0 (0.0%)

評価1: 強く思う 2: だいたい思う
3: あまり思うわない 4: 全く思うわない

1項目における、チェック数の合計は58

意見: すべてのレジュメについて言えることですが、印刷がこまかすぎて読みとれないほど小さな印字のものが多々ある。来年度にいかしてくださ(高齢者が読みとれない)

表3. 評価1～4のチェック数
【小学校・特別支援学校、中・高等学校対象 選択領域全24講座】

項目	評価			
	1	2	3	4
1. 学校現場が直面する諸状況や教員の課題意識を反映して行われていた。	108 (81.5%)	59 (44.1%)	8 (6.0%)	0 (0.0%)
2. 講習のねらいや到達目標が明確であり、講習内容はそれらに即したものであった。	117 (87.9%)	54 (39.6%)	2 (1.5%)	0 (0.0%)
3. 受講者の学習意欲がわくような工夫をしていた。	133 (100.0%)	39 (28.9%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)
4. 適切な要約やポイントの指摘等がなされ、説明が分かりやすかった。	120 (90.4%)	49 (36.2%)	4 (3.0%)	0 (0.0%)
5. 配布資料等使用した教材は適切であった。	124 (93.4%)	48 (35.7%)	2 (1.5%)	0 (0.0%)
6. 開設者の運営(受講者数、会場、連絡、事前調査等)は適切であった。	118 (89.4%)	57 (42.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
7. 教育を巡る様々な状況、幅広い視野、全国的な動向等を修得することができた。	87 (65.5%)	78 (58.5%)	8 (6.0%)	0 (0.0%)
8. これまでに知らなかった理論、考え方や、指導法や技術等を学ぶことができ、今後の教職生活の中での活用や自らの研修での継続した学習が見込まれる。	128 (96.5%)	44 (33.0%)	3 (2.2%)	0 (0.0%)
9. 受講前よりも講習内容への興味が深まり、自分の苦手分野の克服の一助となった。	122 (91.8%)	49 (36.5%)	2 (1.5%)	0 (0.0%)
10. 教職生活を振り返るとともに、教職への意欲の再喚起、新たな気持ちでの取り組みへの契機となった。	124 (93.4%)	47 (35.3%)	2 (1.5%)	0 (0.0%)
11. 全体を通して、他の教員にも勧めたい講習であった。	118 (89.4%)	53 (39.6%)	4 (3.0%)	0 (0.0%)

評価1: 強く思う 2: だいたい思う
3: あまり思うわない 4: 全く思うわない

1項目における、チェック数の合計は173

※ 全項目において記入なしの者 1名、項目5において記入漏れの者 1名あり

表4. 評価4～1のチェック数

	評価			
	4	3	2	1
I. 本講習の内容・方法についての(上記の1～5の項目を踏まえた)総合的な評価	11 (73.3%)	4 (26.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
II. 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての(上記6～9の項目を踏まえた)総合的な評価	12 (80.0%)	3 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
III. 本講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価	13 (86.7%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

	評価			
	4	3	2	1
I. 本講習の内容・方法についての(上記の1～5の項目を踏まえた)総合的な評価	9 (84.3%)	5 (47.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
II. 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての(上記6～9の項目を踏まえた)総合的な評価	8 (87.1%)	8 (82.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
III. 本講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価	8 (87.1%)	6 (62.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

	評価			
	4	3	2	1
I. 本講習の内容・方法についての(上記の1～5の項目を踏まえた)総合的な評価	25 (88.2%)	4 (13.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
II. 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての(上記6～9の項目を踏まえた)総合的な評価	21 (72.4%)	8 (27.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
III. 本講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価	22 (78.9%)	7 (24.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

評価4:よい(十分満足した・十分成果を得られた)
 3:だいたいよい(満足した・成果を得られた)
 2:あまり十分でない(あまり満足しなかった・あまり成果を得られなかった)
 1:不十分(満足しなかった・成果を得られなかった)

	評価			
	4	3	2	1
I. 本講習の内容・方法についての(上記の1～5の項目を踏まえた)総合的な評価	13 (88.7%)	2 (13.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
II. 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての(上記6～9の項目を踏まえた)総合的な評価	11 (73.3%)	4 (26.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
III. 本講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価	14 (93.3%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

	評価			
	4	3	2	1
I. 本講習の内容・方法についての(上記の1～5の項目を踏まえた)総合的な評価	7 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
II. 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての(上記6～9の項目を踏まえた)総合的な評価	5 (71.4%)	2 (28.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
III. 本講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価	5 (71.4%)	2 (28.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

	評価			
	4	3	2	1
I. 本講習の内容・方法についての(上記の1～5の項目を踏まえた)総合的な評価	4 (80.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
II. 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての(上記6～9の項目を踏まえた)総合的な評価	4 (80.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
III. 本講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価	2 (40.0%)	3 (60.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

	評価			
	4	3	2	1
I. 本講習の内容・方法についての(上記の1～5の項目を踏まえた)総合的な評価	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
II. 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての(上記6～9の項目を踏まえた)総合的な評価	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
III. 本講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

評価4:よい(十分満足した・十分成果を得られた)
 3:だいたいよい(満足した・成果を得られた)
 2:あまり十分でない(あまり満足しなかった・あまり成果を得られなかった)
 1:不十分(満足しなかった・成果を得られなかった)

資料3

2009年11月20日 資料作成: 教学事務室

2009年度 教員免許更新講習 収支一覧

【収入】

No	事業内容	項目(内容)	収入	支出				合計
				19022210 兼職アルバイト 振替	19022211 兼職アルバイト 通帳	2105 教員通信費	2114 教員謝礼手数料	
1		更新講習受講料 830,000×29名	870,000					870,000
		合計	870,000					870,000

【支出】

No	事業内容	項目(内容)	収入	支出				合計
				19022210 兼職アルバイト 振替	19022211 兼職アルバイト 通帳	2105 教員通信費	2114 教員謝礼手数料	
1		講師謝礼(源泉徴収含む) 637,100×32講座				1,187,200		1,187,200
2		通信費			63,840			63,840
3		キャンパス内連絡バス運行代 823,100×2日				48,200		48,200
4		更新講習当日学生アルバイト		200,360				200,360
5		更新講習当日学生アルバイト交通費			2,300			2,300
6		教学事務室短期アルバイト		532,000				532,000
7		教学事務室短期アルバイト交通費			32,000			32,000
		合計		732,360	34,300	63,840	1,233,400	2,063,700

収入－支出＝ -1,193,700